

高山

たかやま

高山の原生林を守る会

会報 第 132 号

2025年 3月



2025年3月3日、高山の原生林を守る会事務局長 奥田博氏が逝去されました。享年77歳でした。

奥田さんは高山の原生林を守る会の設立に企業山岳会の代表として参画し、吾妻連峰を活動拠点とする山岳会に呼びかけ吾妻連峰の組織的な植生調査を実現するなど、吾妻連峰森林生態系地域のエリア拡大に大きな力を発揮されました。また、すでに数々の登山ガイド本を執筆されていた経験を活かし、『吾妻・安達太良連峰 森ガイド』『吾妻・安達太良連峰 花ガイド』『奥羽山地・花紀行』の出版を企画し、会員の共同執筆により当時としては珍しい、山岳自然観察と自然保護に重点をおいた本の出版を実現しました。この3部作の販売の収益が長い間、会の活動を支えてきました。高山スキー場問題が一段落した後、岩手のカタクリの会との出会いをきっかけに、自然観察会を中核にした新たな会活動を提案されました。

岳人としては、山岳ガイドの傍ら、『福島百名山』を選定されました。宮沢賢治をこよなく愛し、その作品に所縁のある山を探索され『宮沢賢治の山旅』を上梓されました。そして、東北のブナ林が残る山を散策することをライフワークとされ「東北のブナ紀行」を会報に連載されていました。2011年3月11日の東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故が発生すると会報に「大震災が教えてくれたもの」として山岳の放射能汚染を中心にした随筆を20回にわたって寄稿されました。そして2020年に突発した「コロナ禍」は会を直撃し、深刻な影響をもたらしました。しかし、科学的な観点から観察会継続を方針とする代表を信頼し、支えていただいた。このところコロナ回避と免疫力確保のため野外活動が盛んになっているというのが・・・あれは何だったのか。

奥田さんの訃報を奥さんから頂いたのが、置賜森林管理署主催の吾妻連峰森林生態系保護地域の検討会会場の駐車場でした。これも何かの縁かもしれません。

今回の会報は、奥田博氏を偲び、会員の方々から寄せられた追悼文を掲載します。

第 196 回高山の原生林を守る会男沼・仁田沼雪上観察会

3 月 9 日に 196 回高山の原生林を守る会観察会を実施しました。本来は今回の観察会は奥田さんが担当でした。今回の観察会の参加者は 7 名。皆さん奥田さんと長いお付き合いのある方々で、追悼観察会となりました。

このところの降雪で白さが増した雪面をゆっくり歩きながら、それぞれの奥田さんへの思いを胸にヤブデマリ、サンショウ、コゴメウツギなどの冬芽やミズキ、イヌシデ、ウリハダカエデなどの樹皮の姿を楽しみました。

仁田沼ではハンノキの冬芽やバンダイキノリを観察した後、雪のテーブルを作り、コーヒーが好きだった奥田さんにコーヒを入れ、一緒にハンノキ林を楽しんでいただきました。

観察会終了後は、皆で奥田さん宅に伺い、今回の観察会資料も奥田さんにお渡ししました。



7 人で追悼観察会



陽ざしを浴びて昼食



奥田さんの分も、コーヒーが好きでした

奥田さんを偲んで

1992 年 5 月、熊谷榎さんが尾瀬の取材の山スキーガイドとして奥田さんに会い『ブナ林からの贈り物』(写真石橋睦美、文熊谷榎)には印象を「眼鏡の優男で体つきもほっそりしていて物静かなインテリという感じ」とあります。その翌年から山スキーを奥田さんが計画(というより榎さんが追っていった)してくれたのが最初のきっかけです。1 回目は古い会員だった小澤由美子さんと一緒に滑りました。

ゲレンデスキーの私でも安心して山スキーができて、何よりも普通では見ることができない様々な雪の景色を見せてもらいました。それが私の一番の財産となり、今でも浮かんできます。

3 月の仁田沼観察会では何度も後ろを振り返りましたが、奥田さんの姿は見えませんでした。

田崎裕子



大杉岳にのぼる奥田さん(絵 熊谷榎)

奥田さんを偲んで

私が山歩きをするようになり、購入した本の著者が奥田さん、知らず知らずのうちに世話になっておりました。

そんな中、友人から高山の原生林を守る会への誘いを受け、観察会に参加しました。するとその中に、奥田さんがおりました。あ、この方が！その後、観察会で一緒に話を別の友人にすると「奥田さんとお知り合いなの！」と、驚かれ羨望の眼差しを向けられたのです。次の観察会でその事を奥田さんにお話すると、照れながらにこやかに「高山の原生林を守る会に入会すると会えますよ。と、伝えて下さい」とおっしゃいました。

またある時の観察会では観察ポイントが多く中々前に進めない中やっと歩き出したところで、私がふとこの木は？と先を行く S さんと呼ぼうとすると、「戻すな〜！」とボソッと一声、それが後方にいた人達の笑いを誘いました。またある日の観察会下見では夏山だったので時間を早朝

青柳静子



滑り込みセーフ

第 189 回景場平高山の原生林を守る会自然観察会

に設定し、湿原で朝日を浴びた山を眺めながらおにぎりサンドウィッチの朝食をいただきました。コーヒーがとっても美味しく「贅沢だねえ〜」と、奥田さん、しみじみしました。本番の集合写真撮影時、タイマー設定に間に合わず、半分よろけて足上げ状態でカメラに収まった奥田さん。この時も皆さんの笑いを誘いましたね。

奥田さんから本人の著書をいただいた時に、「奥田さんのサイン入りがいいです」と云うと「本の価値が下がります」とおっしゃった時の顔がいたずらっ子のようにでした。まだまだエピソードは尽きません。ブナをこよなく愛し、『ブナ巡礼』の本のあとがきに書かれた文章に胸がいっぱいになりました。

高山の原生林を守る会の中心的存在の奥田さん、たくさんの思い出、福島の手、自然を伝えていただきありがとうございました。



何か気になるものが？（高山山頂にて）

奥田さんを偲んで

古内真由美

奥田さん、沢山お世話になりありがとうございました。とても言葉では言い表せない位の思い出が沢山あります。私がまだ 在職中に偶然あって肺疾患があると聞きびっくりしました。それ依頼軽い咳していました。大丈夫かなと声かけたこともあり心配していました。

その内入院されたと聞き新年会の頃は熱が下がらないと聞きました。入院中一度も面会に行かなかったことが心残りです。いつも笑顔で明るく優しく冗談言ってくれたそのお顔が忘れられません。

退院したらまた一緒に山に行けるのを楽しみにしていました。訃報を聞き信じられませんでした。本当に感謝感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

奥田さんを偲んで

丸山吉子

奥田さんに、初めてお会いしたのは2年前の十万劫山での観察会でした。山人にとって、あまりに有名な奥田さんですから、お名前は以前から知っていましたけれど、生の奥田さんと会って、お話しできたことが夢のようでした。ご一緒できた時間は短かったけれど、忘れられない方です。メガネの奥の優しいまなざし、カメラを覗く姿、おしゃれな出で立ち、軽妙なおしゃべり……全部忘れません。ありがとうございました。安らかにやすみください(2025年3月15日)。

奥田さんのこと

野中文子

追悼原稿締め切り、の日に伊達市の広告サイト「愛たいちゃんねる」で奥田さんに会えた。飄々とした口調、穏やかな笑顔、昨年11/4、霊山でのインタビューが、約束どおり3月末にアップされたのでした。

霊山は代表提案の親睦登山で、参加者は三人でしたが、よく晴れて澄んだ気持ちの良い日でした。始まりかけた紅葉に奥田さんはゆったりと楽しそうでした。あちこちにカメラを向け、昼はコーヒーを淹れてくれた。最後に「今日はボクのゆっくり歩きに付き合ってくれてありがとう」とお礼を言うてくださった。そういえば奥田さんはいつも、誰に対しても丁寧。でも時々「お前〜だったな」とか「じゃあ、なっ!」とか、高校生みたいな言葉が混ざってそのギャップが笑いを誘っていました。「オメー自分で考えろ」なんて言われても、声に笑顔が混じってるから怖くない。いろいろ沢山教えていただきました。優しい方でした。

初めて会ったのは 2013 年喜多方大仏山のスノウシューツアー。待ち合わせの場所で、隣の車からヒョロっと降りて来て、ちょっとよそゆきの笑顔で先に会釈をしてくれた。バスに乗ったらその人があの有名なガイドさんだと紹介され恐縮。その後、何回かツアーで。中国チベットにブルーポピーを見に行った旅は忘れがたい。安達太良バックカントリーで「君たちはあっちから登ってね、気をつけて」とか言うなり、スキーで行ってしまう奥田さんを、



どこへ行くの？

一生懸命追いかけたこともあった。「もう！ガイド料払ってるのに！」とか腹立てながら(笑)。でも、林間をサーッと滑り降りる奥田さんは若々しくて素敵だったし、リフト代もサービスしてくれた。許して差し上げます。

＜求めよさらば与えられん＞

一言で言うと私にとって奥田さんはそんな人でした。出会って以来ほぼ放置されてたけど、山歩きで困ったり、調べてわからなかった時も、助けを求めたら速攻で返事が来て必要なことを指示してくれました。飯豊縦走のガイドの紹介、岩手の賢治のやぶ山への同行、「高山に登りたいの？そんなら会に入ればいいよ」、第九も日本語教室のゲストもしてくれました。『福島県の山』改訂で飯森山が外された時はがっかりした私が「どうしてですか！」とメール、そしたら「野中さんはあの山の魅力をどう考えてるの」と聞かれ、一生懸命に長いメールを返しましたが、あれ？あれはどうなったんだろうか。もう一度改訂があったらまた入れてくださったのだろうか。

観察会ではリラックスしてほんとに楽しそうな奥田さん、守さんとは最高のコンビでした。辛口のユーモアをまぶしたメールは、励ましたり、揶揄ったり、それがプツリと途絶えた2月、不安がどんどん重なって、とうとう予感が現実になってしまいました。大きな天幕を外された感じです。入院されたと聞いてお慰めにと送ったセンダングサの、種の写真、「もうすぐ風にチリチリ・バラバラにされる直前を捉えた！やっぱ野中さんは見る目があるというか、探し出す「目」が鋭い」と煽てたあとに「ヒトのアラを探す高い能力と同じだと感心しきり」と続いてました。もう、ほんとにっ！！

「写真は気づきだ、これからもセンスある写真を撮ってくださいね」最後に優しくアドバイスくださって、それが1/20病床からの最後のメールでした。奥田さん、ほんとに、ほんとにありがとうございました。寂しいです。でもブナの森で、賢治の山で、これからもお会いできますよね。

奥田博さんへの思い

丹治芳廣

2025年3月4日午後、奥田さんの訃報に接しました。情報を見て「え！これは、どういうこと？」との思いに捉われました。奥田さんの直近の情報が無かったため、本当に驚いてしまいました。

私が、「高山の原生林を守る会」に参加したのは2020年からでしたので、5年間の会活動と一緒に楽しませて頂きました。奥田さんの姿は、佐藤守さんの観察会説明の時間超過に対し「観察を前に進めるように」とのアドバイスをする姿、飄々と知的なオヤジギャグを飛ばす姿、「ブナ紀行」のシンプルで的確に状況を説明する文章に表れており、会の総会で少し紛糾する議題に対して最終的な落としどころを示唆する姿、まさに会を支える人物の姿でした。

もう少し「飄々と語る言葉」「時計を見ながら発する管理者の言葉」「シンプルで的確な紀行文」を見てみたかったとの思いを強く持っています。そして、今自分が母の介護の中で見ていた「老いの考え」に奥田さんの姿が重なり、今の時を大切に生きることの感慨を深めています。

奥田さんのご冥福を願ってお別れの言葉と致します(2025年3月26日)。

奥田さん追悼

七宮 勝広

奥田さんの訃報の連絡を頂いたのは、八甲田・酸ヶ湯温泉にスキーツアーのために滞在した3日目だった。今年の八甲田は雪が豊富で、連日積雪量がテレビで話題になっていた。この時期毎年ここをベースに数名で滑りを楽しんでいた。

考えてみると、この八甲田・酸ヶ湯温泉を最初に利用したのは、福島キャノン山の会の行事で1987年のゴールデンウィークのスキーツアーが最初だった。奥田さんの発案で、主要なルートを滑り帰りは弘前城の花見とおまけ付きだった。あの時とほぼ変わらない千人風呂に浸りながら当時を思い出してしまった。

奥田さんとの出会いは、同じ会社の山岳会なのでそこが出会いかと思えば私の場合はそうではなかった。もう40年以上前の話なので私の記憶も定かではないが、福島で開催された東北総合体育大会・山岳競技の会場だったと思う。当時私は地元の山岳会に所属して福島県代表として選手で参加していた。今はオリンピック競技にあるようにスポーツクライミングが競技種目で有るが、当時は登攀(クライミング)・縦走(トレラン)・踏査(オリエンテーリング)の三種目だった。奥田さんは記録のために写真撮影の仕事だった。レース中私は夢中になっていたのでまったく分からなかったが、いろんな場所から撮影をしていた。最後の種目踏査競技のゴール後、レースから解放された後に二言三言話したのが最初の出会いだったと思う。



いい被写体が見つかったようです

その後、会社でお会いして報告書にあった写真の拡大版がほしいとリクエストしたところ、全紙パネルで頂き感激だった。モノクロ写真だったので本人が現像して木製パネルに貼り付けた物だった。後で私もモノクロ現像をして分かったことだが、たぶんフィルムは粒子から見てコダック・トライX、コントラストがそれなりに出ていたのでレンズにオレンジフィルター使用だったと思う。

それ以来、山の話をする時は写真の話も話題に出て、私は写真の話の方が興味深くいろいろと勉強させてもらった。今、必ずデジカメを持って山に行っているが、その原点はここにあると思う。

あれから40年以上の月日が流れ、類は友を呼ぶと言えばそれまでだが、いろんな山を登った事も事実で、していろんな方との出会いも提供して頂いた。これからも続くのだろうと勝手に考えていたが、今まで見ていた背中がいつの間にか突然いなくなって、広い原野に一人いるようなそんな喪失感を受けています。これから少し時間をかけながら、行き先を見つめたいと思います。

奥田さんとの思い出

(岩手県西和賀町・カタクリの会)瀬川陽子

カタクリの会は、1991年より西和賀町で月に一度観察会をする会として、夫と二人で始めました。「自然観察会を通じて、自然の仕組みを理解し、自然を大切にする心を養いたい」という自然保護の一端で始めた観察会でしたので、東北各県持ち回りで行われている「東北自然保護の集い」にも参加しています。

1993年9月11日～12日の、「第14回東北自然保護の集い・秋田男鹿大会」にも参加しました。まだ息子は1歳と2歳だったのですが、会場近くの公園でキャンプできるということで楽しみに出かけました。夕方家族4人でテントの中で過ごしていました。他の団体のテントを張る声がします。「さあ、テント張れ。ほら紐、引っ張って～」とか、テントを張るのに時間が掛かっている様子。外をそ〜っと見たら、大きなハウス型のテントです。

その夜、他のテント仲間たちと懇親会をすることになりました。二人の息子を寝かせ参加したら、「高山の原生林を守る会(以下高山の会)」のメンバーもいたのです。ハウス型のテントを張っていたグループで、テントを張る指令を出していたのが奥田さんでした。私達は観察会をしていると自己紹介をし「是非参加してね」と誘いました。

早速翌年2月の観察会に参加くださいました。その後奥田さんは21回ご参加くださってます。一人で参加したこともありましたが、多くは高山の会の仲間たちを連れて来てくれました。

100回記念観察会は1999年4月でした。前夜から我が家に高山の会の仲間たちなど数人が泊まりました。オリエンテーションの会場は車で20分かかる場所なので、朝食を済ませ急いで会場に向かいました。受付の準備をしていたら、長男が「タクミ(次男の名前)がいないよ」と言うではありませんか。そうなんです、まだ6歳のタクミを家に置き忘れたのでした。「え〜！」私が家に連れに戻ることにしました。その間往復40分はかかるので、何とか奥田さんのスピーチを「長〜く話してほしい」と頼んだのでした。

その時からお祝いのスピーチは、奥田さんにということになりました。

300回記念は2016年12月。会ができ25年目という節目でもあり、町内の温泉に宿泊しお祝い会を行いました。400回記念は昨年4月でしたが、その時も高山の会の皆さんと駆けつけて下さり、お祝いの言葉をいただきました。

このまま続けて行けば第500回は2032年6月になります。その時も奥田さんにお祝いの言葉をいただこうと思っていました。もし、本当に500回まで会が続いたら、奥田さん天国からメッセージくださいね。

奥田さん、ありがとうございました



この蔵で夜通し語りあいました



安らぎのひと時



何を見てる？

奥田さんを偲んで

渡邊アヤ子

3月4日の午後、奥田さんが亡くなったとの知らせを受けました。一瞬、頭の中が真っ白くなりました。

奥田さんが入院されていることは知っていました。肺の機能が弱くなり、ちょっとした坂道で息が切れていたのも知っていました。でもきっと春になって暖かくなったら元気になって戻ってくると信じていました。それが今、こんな形で棺に入って冷たくなっているとは・・・信じがたいです。

奥田さんとは2010年、町の登山教室の講師としてお迎えしたとき初めて出会いました。お名前は存じていましたが面識はありませんでした。私の勝手な想像で、登山ガイドは体格がよく強面の人と思っていたのですが、現れた人は、細身で物腰の柔らかい穏やかな方でした。私のイメージと大きなギャップがあったのを覚えています。

その年の冬、ヒマラヤのゴーキョピークにご一緒させていただきました。きっかけは登山教室の安達太良山でお昼ごはん食べていたときのこと、何気ない会話から年末にヒマラヤに行くとお話、しかもまだ参加枠が空いているとのこと、私は思わず「私も連れて行ってください！」お願いしました。エベレストをこの目で見たい、私の夢、それが著名な登山家である奥田さんで行けるなんてこの上ない機会です。今考えると何ともムチャな話ですが思い切って行って本当に良かったです。奥田さんは当時のことを「おにぎりの梅干しの種を出しながら聞いていた」そうです。梅干しの種がのどに引っかからなくて良かったです。

奥田さんとの出会いがあってから私の山の世界が大きく広がりました。山スキー、高山の原生林を守る会、カタクリの会との交流、そして何回かの海外登山と山旅。本当にお世話になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。奥田さんは垣根を作らず、決して偉ぶらず、誰にでも分け隔てなく接してくれました。淡々とした佇まい、しかし大きな存在でした。まだまだ一緒にいたかった、いろいろ教えてもらいたかった、お話ししたかった、残念で残念でなりません。

ブナの森を愛してやまなかった奥田さん、今ごろは風になって森の中を吹き抜けているのでしょうか、それともゆっくりコーヒーを飲みながら根開きの始まった中心に腰を下ろして空を見上げているのでしょうか、はたまた山スキーで木々の間を滑走しているのでしょうか。今年は雪が多くてまだまだ寒いですが。もう若くはないのですから気をつけてください。

その辺からひょっこり奥田さんが現れるような気がしてなりません。またお会いしたいです。奥田さん、本当にありがとうございました。合掌(2025年3月9日)



山スキーは楽し

奥田 博氏との出会いと思い出

松井 さき子

私は「高山の原生林を守る会」に途中入会し、奥田博さんと出会いました。奥田さんは登山家で以前にエベレストのベースキャンプ地まで登ったと聞いていました。素晴らしいですね。「福島百名山」「ふくしまの低い山」等を出版され、他に東北写真家集団や FTV の登山クラブ、花の写真クラブも作られており、その活動力はすごかったですね。

高山の原生林を守る会の観察会ではキャノンのカメラを持って最後尾を参加者を見守って歩いていただき大変お世話になりました。会の集合写真を撮って頂いたり、会報には「東北のブナ紀行」を長年執筆されていましたね。写真展での素晴らしく迫力のあるブナの写真は心に残っています。近年はブナの木と木の麓に咲く花を写しておられ、私の好みの写真でした。二年前ぐらいから私にメールが時々届くようになり、花の咲く場所を教えてくださいと！！花友を誘い、何回か案内しましたね。これからまだまだ案内しようと思っていたのに、出来なくて残念でなりません。

奥田さんに誘われて、エベレスト街道を歩き、5千メートルのゴーキョピークに登り、間近でエベレストを見ることができた。下ってきたホテルで、次はどここの山に行きたいか？と聞かれ、皆でスイスアルプスでしょう！！と言いました。それでスイスへ4千メートルの雪山ブライトホルン登頂とマッ



今は天空の散歩中？

ターホルンを見ながら花めぐり。次に、フランス～スペイン。国境を超える花旅とたくさんのマーモットとの出会い。次には、私の友人が絶対おすすめのブルーポッピーを観たいと伝え、すぐ計画して頂き中国へ。様々な色のブルーポピーとまさかのエーデルワイスのお花畑、延々と続くエーデルワイスのお花畑を歩いた。最後に友人が提案した黄色いカタクリを観に！！カナディアンロッキー山脈を眺めながら花巡り。出会った動物、クマは車の中からパチリ。シマリスとおしゃべり。木の上の白鷹鳥。ポールの上にはオスプレーが！感激！

これまで奥田さんと歩いた「花の旅クラブ」で沢山の思い出は忘れられません。ありがとうございました。まだまだ花旅をしたかったです！！

高山の原生林を守る会代表の佐藤守さんと共に高山の原生林を守る会を引っ張っていただき、本当にお世話になりました。お元気になり、もう少し続けてほしかったです。なぜそんなに急いだのでしょうか？悲しくて悔しくてなりません。涙がこぼれ、止まりません。

ご冥福をお祈り申し上げます。

奥田さん、安らかに

佐藤 守

奥田博さん、お疲れさまでした。奥田さんとのお付き合いは高山の原生林を守る会が設立された 1987 年からですから、もう 38 年になります。それ以前からキャノン山の会の代表としてお名前は伺っており、キャノン山の会は沢登りを中心とした会の活動をしておられ、私が以前に所属していた山岳会と似たような山行をしていたことから関心をもっていました。

高山の原生林を守る会が設立されたことで、初めて奥田さんにお会いすることになったのですが、親しいお付き合いが始まったきっかけは高山の現地調査をまとめた冊子「高山」の編集作業だったように思います。その後 2 編の報告集を経て「森ガイド」「花ガイド」「花紀行」と高山の原生林を守る会編集のガイド本の出版が続きましたが、その実務作業でお互いに自宅を訪れるようになり、お互いの信頼関係が深まっていったように思います。

その後、私が結婚した時に、お祝いにいただいたのがブルーポピーの油絵でした。その油絵は今でも玄関から見えるところに飾られています。長女が生まれると何回か娘さんの紗希さんを遊びに連れてきていました。しかし、紗希さんの心臓が悪くなり、お出かけできなくなってしまったのは残念でした。

結婚後は、パートナーが経験のある飯豊登山以外は、宿泊を伴う山行は遠慮していました。それは山登りの習慣がないブラジル生まれのパートナーを気遣ったことでした。やがて、冬の西和賀詣でが宿泊付きの山行として加わりました。これは奥田さんのお誘いが始まりでした。パートナーは奥田さんを大変信頼していて奥田さんの誘いという快く送り出してくれました。毎冬、カタクリの会の瀬川ご夫妻とそのお仲間との交流を楽しみました。

そんな冬の西和賀詣での中で、特に思い出に残っているのは奥田さん、七宮さんと 3 人で歩いた鉛山、駒頭山、天ヶ森の尾根のスキー縦走です。駒頭山からは小ピークの連続でした。気づくと七宮さん、奥田さんの順にひとピーク先を歩いており、その脚力にあきれ返りました。

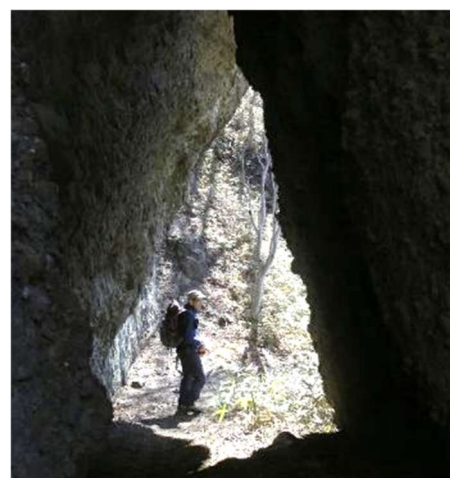
東日本大震災と東京電力福島原発事故、コロナパンデミックと立て続けに未体験の災害に遭遇しましたが、それにもかかわらず会を続けられてきたのは、山を愛し、自然を愛し、人を愛してきた奥田さんの行動力があればこそでした。

奥田さんの山岳活動の範囲は日本に限らず、世界の山にも及びました。肺に原因不明の病を得た原因が海外登山にあるらしいことを私に打ち明けた時、「それでも悔いはない」と言い切った奥田さんの声が今、頭に蘇ります。生き切った奥田さん。姿は消えてしまいましたが、心の中にはしっかりと奥田さんと語り合った思い出が残っています。これからは「東北ブナ紀行」の最終号でいただいた奥田さんの言葉を励みに仲間と会活動が続けていきます。

お疲れさまでした。ゆっくりお休みください。また、会いましょう。



奥田さんとカタクリの会の仲間、横手市の佐藤 B 作さん(A 作は私)



奥田さんは新しい世界へ

第 197 回自然観察会 口太山・早春の植物観察会

日時：2025 年 4 月 27 日（日）8：00～15：30

集合場所 「若松崎展望台」駐車場

集合時間 8:00 参加定員 20 名

内容 川俣町と旧東和町の境に坐する口太山の自然林を散策し、新緑と林床の春の花など、春本番の森の表情を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、防寒手袋（＋毛手袋）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳

＊装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代（500 円）、申し込み：4 月 25 日（金）まで佐藤守（024-593-0188）へ電話またはメールにてお願いします（電話申込は午後 7 時～9 時でお願いします）。

西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランティア（環境省、NF 米沢と共同で実施します）

今年もロープ設置作業の一般公募を継続します。実施日は以下の予定ですが、今年は積雪が多いことと新たな植生回復作業を予定しており、実施日を変えて西吾妻小屋に宿泊して西大巔鞍部と天元台－西吾妻小屋のロープ設置作業を終えることも検討しています。

1. 実施日

作業山域：西大巔鞍部：2025 年 6 月 10 日（火）6 時 30 分～16 時 00 分

作業山域：天元台－西吾妻小屋（NF 米沢と共同で実施します）：2025 年 6 月 14 日（土）6 時 30 分～16 時 00 分

5. 申し込み：6 月 9 日（月）まで佐藤守（024-593-0188）へ電話またはメールにてお願いします（電話申込は午後 7 時～9 時でお願いします）。

詳細は佐藤守までお問い合わせください

奥田博氏のお墓参りの御案内

3月3日に逝去された奥田博氏のお墓参りを下記の日程で執り行います。参加を希望する方は佐藤守までお知らせください。なお、今回のお墓参りは奥田美智子さんのご厚意で催します。高山の原生林を守る会の他、奥田さんと交流のあった方々に呼びかけています。

期日 4月11日（金）

9時30分 小鳥の森駐車場集合、墓地駐車場へ車で移動

9時35分 墓地駐車場、徒歩で墓地に移動

9時45分～10時30分

各自、献花、焼香の後、英語歌詞でエーデルワイス合唱

10時30分～12時

奥田さんを偲び、小鳥の森カタクリの小径までを観察しながら往復します

12時 駐車場の東屋で昼食ご解散、昼食は各自持参

昼食後、希望者で小鳥の森を観察（奥田美智子さんは昼食後帰宅します）

＊エーデルワイスは娘さんが好きだった花です。墓石に美智子さん作画のエーデルワイスが刻印されています。

＊英語の歌詞は用意しますが、自前で準備される方はその旨、ご連絡ください。

振込による会費の納入は、郵便振替 02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」 へ

「高山」高山の原生林を守る会会報 第132号 2025年3月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP：<http://adumatakayama.justhpbs.jp/index.htm>
(URL が変わりました)

代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188(夜間7時～9時)

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費(1000円)を添えて上記まで

編 集：佐藤